

文脈の中で活用できる自己表現を身に付け、 他者と心を紡ぐ外国語の学習

I 外国語活動・外国語科の方向性

1 主題設定の理由

小学校の新学習指導要領が全面実施され、高学年の外国語活動が領域から教科となり3年目を迎えました。教科化された外国語科は、これまで以上に主体的に外国語で他者とコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを重視しています。

令和3年度「全国英語教育実施状況調査」によると、小学校では、9割以上の学校が1時間の授業の中で半分以上（「75%程度以上～」または「50%程度以上～75%程度未満」と回答した学級数の割合の合計）の時間、言語活動を行っていることが分かりました。全国的に言語活動の充実により、コミュニケーションを図る資質・能力の育成を図ろうとしているといえます。しかし、直山(2022)は、「言語活動を通じた」授業の工夫改善が必要であることを指摘しています。単に繰り返し活動を行うのではなく、児童が言語活動を行う目的や言語の使用場面を意識して行うことができるよう、具体的な課題等を設定することや必要な言語材料を取捨選択して活用できるようにすることが必要であると示唆しています。

前研究までの成果や全学年で外国語教育に取り組んできた成果として、コミュニケーションの目的や場面、状況などの明確化・充実により、児童が思いや考えをもちながら、十分にコミュニケーションを図ることや自己の学びの成果を実感したり、学習活動への意欲をもったりすることが成果として表れました。

その一方で課題として、「正しく発音できているか自信がない」「人前で英語を話すことが苦手」など、特に高学年においてコミュニケーション（特に「話すこと」）に対して不安を感じている児童が多くいることが分かりました。学びのプロセスにおいて、児童が自己表現力を高め、自信をもってコミュニケーションを図るためには、児童がコミュニケーションの目的や自己の目標を達成する成功体験を積み上げ、繰り返しコミュニケーションを図ろうとする態度の育成が必要です。

そこで、研究主題を「文脈の中で活用できる自己表現を身に付け、他者と心を紡ぐ外国語の学習」と設定しました。「文脈の中で活用できる自己表現を身に付け」とは、目的意識をもって学習に没頭する中で獲得した表現内容や表現方法を実際に活用することを大切にし、自分の思いや考えを英語で適切に自己表現することを指します。また、「他者と心を紡ぐ」とは、繰り返しコミュニケーションを図る中で、自分の思いや考えを他者と伝え合い、心を通わせ、互いの理解を深めることを指します。

これらの学習の実現に向けて、「外国語におけるコミュニケーションの見方・考え方」を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを明確にした児童が没頭できる言語活動を設定し、その活動での学びや児童の自己表現を支える手立てを講じることが教師の役割であると考えます。よりよいコミュニケーションをするための表現内容や表現方法について内省し、他者とよりよいコミュニケーションを実現する児童の育成を目指します。

2 目指す「新たな価値を創り出す」児童の姿

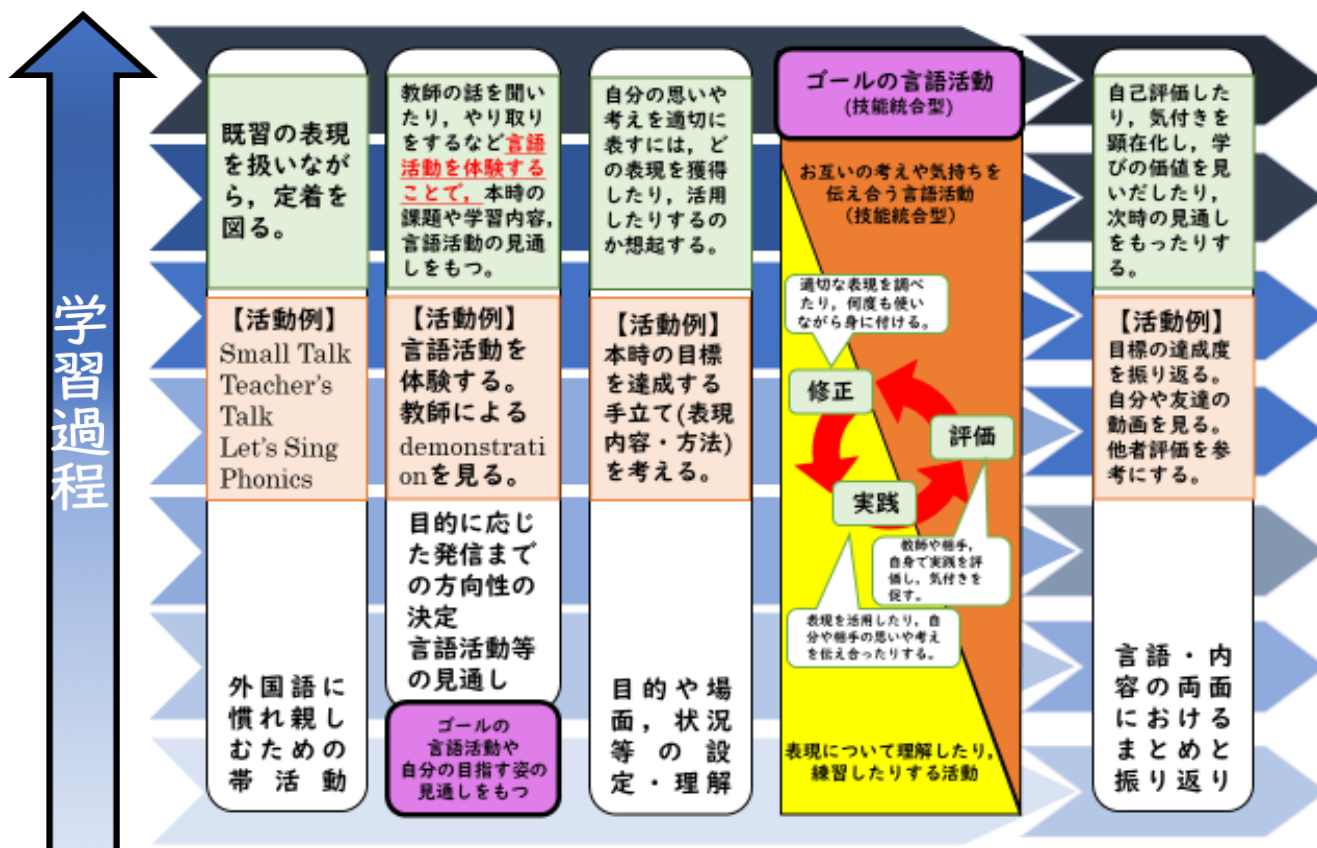
外国語科における「児童が創り出す『価値』」を以下のように押さえました。

| | |
|----------------------|---|
| ①自ら問いをもって、探究することの価値 | 課題意識や目的意識をもち、試行錯誤しながら、よりよいコミュニケーションを図ろうとすること。また、そこから学ぶ意味や目標を見いだすこと。 |
| ②人と関わり、協働して探究することの価値 | 他者との対話を通して、自己や他者の理解を深め、互いの存在を尊重しながら、自分の思いや考え、表現を豊かにすること。 |
| ③探究する中で得た内容知や方法知の価値 | 「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を豊かに働かせ、実生活のコミュニケーションに生かし、他者と豊かに関わり合うこと。 |

II 研究内容の具体

1 「探究型の学び」のイメージ

直山(2021)は、児童が失敗と修正を幾度となく重ねながらゴールを目指す姿を、職人が漆を何度も塗り重ねて光沢のある漆器をつくる漆塗りたとたとえ、「漆塗り型」の学習展開を提唱しています。直山(2021)の図と、外国語 WG における審議で示された「外国語活動・外国語科の学習過程のイメージ」の図を踏まえ、本校外国語科における「探究型の学び」を次のように整理しました。



各時間の冒頭では、単元へのゴールイメージや表現への意欲、課題意識をもつことをねらい、教師のデモンストレーションを見聞きしたり、見聞きしたことを試したりする活動を設定します。そこから、課題を解決するためにどのような表現内容や表現方法が必要なのかを考えるなど、児童が自分自身の思いや考えを発信するまでの方向性を決定したり、言語活動の見通しをもったりします。

その後は、単元の前半部分において、語句や表現の音声知覚や意味理解のための教師と児童のやり取りを中心とした活動を展開します。単元の後半部分にかけては、自分の思いや考えに関する語句や表現を運用する力である自己表現力を高めるための児童同士などのやり取りを中心とする活動を展開します。各時間に目的や場面、状況等を具体的に設定した言語活動をゴールとなる言語活動に向かって児童自身が自己の表現を高めることができるよう、目的や場面、状況等といった学びの文脈を大切にしながら各時間の言語活動を設定しました。

[実践例：4年生「What do you want?」(4/5時)]

○外国語に慣れ親しむための帯活動

- ・ Phonics Song (Kids TV 123) ・ Let's Chant (♪What do you want?)

○目的に応じた発信までの方向性の決定・言語活動等の見通し

- ・ Demonstration① 教師のパフェ作りのやり取りを示す ・ 児童がやり取りをやってみる

○目的や場面、状況等の設定・理解

- ・ パフェの食材ややり取りに必要な表現を確認する ・ Let's Listen① (好きなパフェ紹介)

○表現について理解したり、練習したりする活動・お互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動

- ・ Demonstration②見本を示す ・ パフェ作りのための会話練習 ・ オリジナルパフェを紹介

○言語・内容の両面におけるまとめと振り返り

- ・ 詳しい情報のやり取りによってパフェ作りができた。 ・ 次のピザ作りで反応を大切にしたい楽しい会話をしたい。

2 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する授業デザイン

研究を進めていく上で、本校外国語科では「個別最適な学び」と「協働的な学び」を以下のように押さえました。

◆外国語における「個別最適な学び」

「外国語におけるコミュニケーションの見方・考え方」を働かせ、自分の目標実現に向け、学習方法を選択し、自分の思いや考えを適切に表す表現内容や表現方法を試行錯誤しながら獲得し、活用していく学び。

◆外国語における「協働的な学び」

「外国語におけるコミュニケーションの見方・考え方」を働かせながら、互いの思いや考えを共有する学び合いを通して、見方・考え方を豊かにしたり、互いの理解を深めたりする学び。

これらの二つの学びを一体的に充実させるためには、「外国語におけるコミュニケーションの見方・考え方」を働かせることが重要です。

そこで、児童が「外国語におけるコミュニケーションの見方・考え方」を働かせながら、自己表現力を高め、コミュニケーションを主体的に行う指導の工夫について研究を進めました。

《単元の見通しを基にした適切な自己目標の設定》

児童が主体的に自己表現するためには、児童自身が何のために、何を、どのように学ぶのか、自分で見通しておくことが大切です。阿部・根岸（2021）は、単元の導入時に、ゴールの言語活動（パフォーマンス課題）の提示による単元の学習内容の共有だけでなく、CAN-DOリストを基に評価の指標についても共有したり、教師と児童と一緒に設定したりする活動を取り入れることを推奨しています。自ら評価の指標について考えることが、単元全体を見通したり、よりよい表現にすることへの意欲をもったりすることにつながり、適切な自己目標を設定することができると思えました。

[実践例：6年「What do you want to be?」]

○目的を明確にしたゴールの言語活動の共有

本単元では、単元の導入時に教師の小学生の時、中学生の時、高校生の時の将来の夢について紹介をした。児童から「知らなかった」などの声を引き出し、相手の将来の夢について知ると今まで知らなかった一面を知ることができることに目を向けて、単元のゴールの言語活動である【パフォーマンス課題：互いの知らない一面を知るために、将来の夢について発表しよう】を児童と共に設定しました。

○評価の指標の作成及び自己目標の設定

「互いの知らない一面を知るために、将来の夢について発表する」という共通のゴールの言語活動の遂行に向けて、児童と共に話し合いながら、CAN-DOリストを基に評価基準を作成します。今までの学習経験（言語活動歴やリフレクションシート等）や本単元のゴールの活動を体験して得た気付きから、自身の課題を捉え、この単元で身に付けたい表現内容や表現方法を考えます。B基準は、既習の学習の課題などから、「理由や問い掛けなどの習った表現を入れて、相手を見ながら詳しく発表する」と学級全体で設定し、A基準は、児童それぞれが自身の目指す姿をイメージして、自己目標を決めました。

【パフォーマンス課題】 互いの知らない一面を知るために、将来の夢について発表しよう。

| A | B | C | D |
|--|---|--------------------------|------|
| (Bに加え) 自分なりの工夫 (ジェスチャーや写真 を用いるなど) をしなが ら 発表する ことができる | 理由や問いかけなどの 既習の表現を使い、 相手を見なが ら くわしく発表する。 | 将来の夢だけ発表する 先生の力を借りて行う | できない |

児童のA評価の設定例

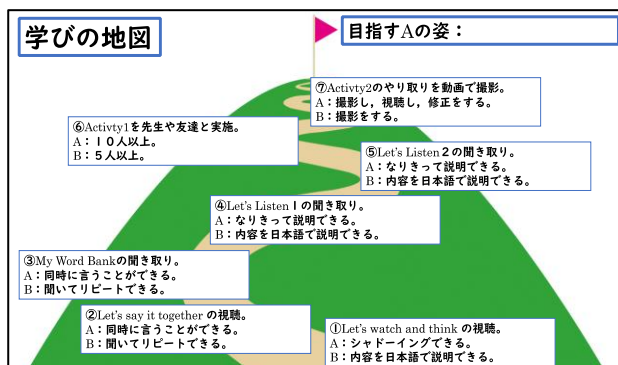
| A児 | B児 |
|---|---------------------------------------|
| 知っている表現を使い、言葉によって速さを変えられる。そしてジェスチャーや写真をつかうことができる。 | 相手にくわしく伝え、言葉だけでなく、ジェスチャーや表情を工夫して伝えたい。 |

【児童と設定したパフォーマンス課題や評価の指標】

《個別での学習を支えるプランニング》

金谷(2017)は、「外国語におけるコミュニケーションの見方・考え方」を働かせたり、成長・発展させようとする児童の姿の実現には、知識を獲得し、その知識を運用する技能を身に付けることや児童が言語習得の流れに沿って英語を幾度となく繰り返し聞いたり、触れたりすることが必要であると示唆しています。その際、児童の学力差や習熟に掛かる時間差、学習スタイルの違いなど、児童一人一人に適切な学びを展開するには、指導の個別化が必要だと考えました。そこで、教師と児童又は児童同士のやり取りを中心とする一斉授業と、一人一人の目標や習熟の状況に応じて進める個別の学習を組み合わせながら、よりよい表現方法の獲得に向けて自ら学びを進める学習展開について研究を進めました。

個別での練習場面において、児童が粘り強く、自己調整を図りながら自らの学びを推進していくためには、目標を見失わずに、見通しをもって学習を進める必要があります。そのために「学びの地図～ラーニングマップ～」を用います。「学びの地図～ラーニングマップ～」には、自己目標や実現に必要な技能を身に付けるタスクや手順の一例を示し、見通しをもって活動に取り組むことができるようになっています。適切な自己目標の設定や目標実現のための学習方法を自身で調整を図りながら、繰り返し表現に慣れ親しみ、表現を身に付けようとする主体的な姿や、他者とコミュニケーションを図りながら、目標実現しようとする協働的な学びの姿を実現できると考えました。



3 児童が新たな価値を創り出すための振り返りの工夫

これまでの研究では、児童が自らの学びを振り返り、コミュニケーションの成果や楽しさを感じたり、次時へのめあてを立てたりすることを大切にしてきました。それに加え、児童自身による自己評価、他の児童や教師からの評価などの複数の視点による振り返りによって、「外国語におけるコミュニケーションの見方・考え方」を働かせることができ、児童自身の課題をより明確にし、自己表現力を高めていこうとする意欲につながると考えました。

○自己評価や他者からの評価の多様な方法による振り返り

【実践例：6年「My best memory.」】

単元のゴールの言語活動として、「神戸の小学生と自分の小学校生活で一番の思い出を発表しよう」を設定しました。ゴールの発表動画の撮影に向け、リハーサルとしてビデオを撮影しました。その後、自分の発表動画を見て自身で気付いたことや、他者が動画を見て気付いたよさを基に、自分の目指す姿と比べながら成果と課題を見いだします。その内容を具体的にリフレクションシートに記入しました。言語活動の目的に必要な表現方法を身に付けようとして目標を再構築しており、「外国語におけるコミュニケーションの見方・考え方」を働かせていると言えます。



自分の目標と比べて、自分の動画を評価します。

他者からの評価を参考にしながら振り返りをまとめていきます。

●実際の場で使ったことや工夫したことを書きましょう。

【他者からの評価】

声聞き取りやすい
スムーズ
楽しそう
わかりやすい
ジェスチャーを使う

【振り返り】

今日表現してみても…気づき・成果 ラストチャンスに向けて…課題・方向性

僕は、自分のスピーチの動画を見てみて、気付いたことがつあります。1つめは、早口であるということです。僕は、今までずっと、自分ではゆっくりと話しているつもりでしたが、動画を見ると、話すスピードが少し速かった感じがしました。だから、次回は、自分が思っている以上にゆっくり話すようにしたいです。2つめは、目がキラキラしているということです。これも、自分では感じていませんでしたが、動画をみたことで気づきました。次回は、話すときにカメラの同じ場所を見て話すようにしたいです。3つめは、間をあげることです。スピーチの動画を見てみると、セリフを忘れたところでは間があるのに、覚えていたところでは間をあげずにスラスラと話してしまっていました。これでは、見ている人は内容が何もわからないと思うので、次回は、単語と単語の間や文と文の間に間を入れて話したいです。今日は時間がなくてやらなかったのですが、次回は本番の動画を撮影するので、実際に取った写真を使って話したいです。

【自己評価】

大絶叫

支持率CAN-DO到達段階

A 前を見て、習っている表現を活かして紹介できる

Ⅲ 研究実践

5年生実践 『This is my dream friend. ～友達になってみたい人をしようかいしよう～』

実践のテーマ：海外の子供と友達になるために、

よりよい自己や他者を紹介する表現を身に付け、自己や他者理解を深める学習

1 研究授業のねらい

本単元では、外国の人と友達になるために、外国（インドネシア、アルジェリア、ベトナム、イタリア、香港、スリランカ）の子供の好きなものや得意なことなどについて聞いたり、友達になってみたい人について紹介したりすることをねらいとしました。

本時では、外国の小学生からの自己紹介動画を視聴し、聞き取ったことや感じたことについて交流しました。交流を通して、得意なことや好きなこと、その国独自の文化などについて更に詳しく聞き取ることの必要感やよりよい表現への意欲を喚起し、自己と他者理解を深める「他者と心を紡ぐ」児童の姿を目指しました。

2 単元の指導計画（8時間扱い）

| 時 | 学習活動の概要 | ◆CAN-DOリストの具体的な場面 | 評価規準・評価方法 (網掛け部分は、記録に残す) | | |
|-----------|---|--|-----------------------------|--------------|------------------|
| | | | 知・技 | 思・判・表 | 主体的 |
| ① | ○外国からの依頼のビデオを観る。 ○自分の得意なことを紹介してみる。 ○規準を共有し、目標の姿を考える。 ○学習計画を考える。 学習の見通しをもとう。 | 【聞くこと】 ◆基本的な表現を用いて、自己紹介する。 | | | ・行動観察・リフレクションシート |
| ② | ○自己紹介の動画を録る準備をする。 ○語句や表現を確認する。 ○自分に必要な語句や表現の練習をする。 ○自分の得意な事を交流する。 オンラインを探そう。 | 【話すこと [発表]】 ◆canとbe good at~を使い分けながら、基本的な表現を用いて、自己紹介する。 | ○行動観察 | | |
| ③ | ○自己紹介のやり取りをしてみる。 ○聞く活動に必要な語句や表現の確認をする。 ○外国の子供の自己紹介動画や音声を視聴する。 ○Let's Think!・他己紹介する表現を考える。 ○Activity・聞き取った外国の子供のことを紹介しよう。 ○動画を見て気付いたことを共有する。 ビデオで聞き取ったことを伝えてみよう。 | 【話すこと [発表] /聞くこと】 ◆自己紹介する。 ◆動画や音声で聞き取った基本的な表現を用いて、外国の友達になってみたい人を紹介してみる。 | ○行動観察・ワークシート | | |
| ④ (本時) | ○自己紹介のビデオに撮ってみる。 ○聞く活動に必要な語句や表現の確認をする。 ○外国の子供の自己紹介動画や音声を聞く。 ○Activity 聞き取った外国の子供のことを詳しく紹介しよう。 ○動画を見て気付いたことを共有する。 ビデオでくわしく聞き取った内容を表現してみよう。 | 【話すこと [発表] /聞くこと】 ◆自己紹介する。 ◆動画や音声で聞き取った基本的な表現を用いて、外国の友達になってみたい人を紹介してみる。 | | ○行動観察・ワークシート | ○行動観察・リフレクションシート |
| ⑤ | ○自己紹介のビデオを修正する。 ○教師の他己紹介を聞き、性格の表現を知る。 ○他己紹介をしてみる。 ・もう一度やり取りを行い、成果を共有する。 ○他己紹介の表現を読んだり、なぞり書きする。 ○Sounds and Letters ・l and rの練習を行う。 理想の友達や家族について伝え合ってみよう。 | 【話すこと [発表] /聞くこと】 ◆自己紹介する。 ◆基本的な表現を用いて、理想の友達になってみたい人や家族について紹介する。 | | ・行動観察・ワークシート | ・行動観察・リフレクションシート |
| ⑥ | ○自己紹介のビデオを完成させる。 ○リハーサルを行う。 ・グループで撮影をし合いながら、発表をためにしにやってみる。 ○よりよい発表にするために発表メモを修正し、再度リハーサルを行う。 ○他己紹介の表現をなぞる。 ○Sounds and Letters ・l and rの練習を行う。 外国の友達になりたい人とその理由について伝えよう。 | 【話すこと [発表] /聞くこと】 ◆自己紹介する。 ◆発表に必要な資料を用いて、発表をする。 ◆リアクションをしながら、相手の意図や考えを聞き取る。 | ○行動観察・ワークシート | | |
| ⑦ | ○4人グループで発表し合う。 ・互いに撮影をする。 ○代表者数名が全体の前で発表する。 ・学びの成果を共有する。 ○学習を振り返り、学びの意味を創り出す。 外国の友達になりたい人を紹介し合おう。 | 【話すこと [発表] /聞くこと】 ◆発表に必要な資料を用いて、発表をする。 ◆リアクションをしながら、相手の意図や考えを聞き取る。 | | ○行動観察・ワークシート | ○行動観察・リフレクションシート |
| ⑧ | ○単元の内容についての定着を確認し、理解を確実にする。 ・テストを通して学習内容を振り返る。 ・単元全体の学習を振り返り、学びの価値を見いだす。 | 【聞くこと】 ◆自己紹介や他己紹介の内容を聞き取る。 | ○ペーパーテスト | | ○リフレクションシート |

3 本時の学習

| | | |
|---|---|---|
| Title | 5年『This is my dream friend. ～友達になってみたい人をしょうかいしよう～』(4/8) | |
| 目標 | 外国の人からの動画や音声視聴し、自分や友達の考えと比べるなどしながら、相手の得意なことなどについて聞き取る。 | |
| 語句・表現 (単元) | 未習 | I'm good at～., She(He) is good at ～., What are you good at?等 |
| | 既習 | 挨拶, 曜日, 職業, I like～., I can～., I want ～., Why do you ～?, 等 |
| 準備 | プロジェクター (大型モニター), Chromebook | |
| 学習活動 | | 研究との関わり・留意点 |
| <p>1 Greeting & Small Talk.(6 min.)</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国の人に送る自己紹介の表現を身に付ける。 <p>C「My favorite sports is soccer. I'm good at shooting.」 C「I like Sushi. Sushi is fish and rice.」</p> <p>2 Demonstration (2min)</p> <p>3 Review (3min.)</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時の学習を振り返り、本時の課題を立てる。 <p>C「もっと外国の子供の動画を見たい。」 C「前回よりももっと詳しい内容を聞きたい。」</p> <p>4 Today's goal (1 min.)</p> <p style="text-align: center;">----- 外国の人と友達になるために、 外国の人について聞き取ったことを紹介してみよう。 -----</p> | | <ul style="list-style-type: none"> 既習表現を用いながら、自己紹介をする。 動画を撮影したり、友達とやり取りしたり、多様な方法で自己紹介のレベルアップを図る。 T1, JTE, ALTの三人で、家族について他己紹介を行い、本時の課題へと方向付ける。 児童に指名をし、自己紹介の課題や前時間を振り返り、全体で本時の課題を設定する。 |
| <p>5 Let's think (4 min.)</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習で児童が自分の目指す目標に向け、どのような方法だと達成できそうかを考える。 <p>C「一人でじっくり何度も聞き返したい。」 C「グループで一緒に得意なことを聞き取りたい。」 C「先生と友達と一緒に聞く練習をしたい。」</p> <p>6 Activity (18min.)</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国の人の自己紹介動画を視聴し、理解できた内容を友達と交流したり、英語でその外国の人について紹介したりする。 <p>C「ゆっくり聞いたら、10歳だって聞き取れたよ。」 C「この子は僕と同じでサッカーが好きなんだよ。」 C「He is good at playing baseball.」 C「She likes music.」</p> <p>7 Reflection (5min.)</p> <ul style="list-style-type: none"> ペアや3人グループで動画を視聴したり、紹介をしたりして気付いたことを交流する。 <p>C「ベトナムもこのチョコレート売っているんだ。」 C「アルジェリアの人たちは巻き舌の音がする。」 C「この人あなたと同じで、アニメが好きみたい。」</p> | | <p>◇「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する授業デザイン 研究視点2</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時よりも詳しい情報を聞き取ることができるように、自分と外国の人の自己紹介を比較しながら聞く、友達と一緒に聞くなどの本時の課題を達成する方向性を決め、共有する。 視聴回数や再生速度を調節したり、一人やペアで聞いたり、友達とやり取りをしたりするなど「ラーニングマップ」を基に、児童が学ぶ方法や活動を選択しながら、学習を進める。 教師は、適宜必要な支援やフィードバックを児童に与えることや全体で中間指導を行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【思考・判断・表現】 外国の小学生の得意なことなどの自己紹介について理解したことを、ワークシートにメモするなどして聞き取っている。 ＜行動観察, ロイロノート＞</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 言語面や内容面の気づきをペアやグループで共有する。 |
| <p>8 Looking back (5 min.)</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題に対する気づきや感想を書く。 <p>C「色んな動画を見ることで共通点のある人を見付けることができた。」 C「友達に教えてもらって、真似したい表現が見つかった。」 C「次時は、この人についてどう紹介するかを考えながら視聴したいな。」</p> <p>9 Greeting (1 min.)</p> | | <p>◇子供が新たな価値を創り出すための振り返りの工夫 研究視点3</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 外国の小学生の得意なことなどの自己紹介について理解しながら、友達に紹介したり、ワークシートにメモするなどして聞き取ろうとしている。 ＜行動観察, 振り返りシート＞</p> </div> |
| <p>◇授業の見所・本時で願っている児童の姿</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>6～8の場面</p> <p>自分に合った方法で外国の友達の自己紹介について聞き取り、聞き取った内容を交流したり、紹介しようとしたりする姿。</p> </div> | | |

4 授業の実際

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する授業デザイン

児童が文脈の中で活用できる自己表現を身に付けながら、個別最適な学びと、協働的な学びとが往還する学びを実現するために、単元を通して以下の2点の手立てを重視しました。

①単元の見通しを基にした適切な自己目標の設定

②個別の学習を支えるプランニング

児童自身が単元の見通しをもつために、単元のゴールの活動を体験することや体験をして気付いた自身の課題、その課題を基に単元を通して達成したい目標を具体的に設定する活動を単元の導入部に設定することを構想しました。

実際に、単元の導入時には、外国の先生から「私の学校の子供が日本の子供と友達になりたいと言っているので協力してほしい」という旨の動画を視聴し、単元のゴールの言語活動である

【パフォーマンス課題：外国の人と友達になるために、自己紹介と友達になりたい人について紹介しよう】を上図のように設定しました。

また、今までの学習経験（言語活動歴やリフレクションシート等）や本単元のゴールの活動を体験して得た気付き、言語活動の目的や場面、状況を考慮して、本単元で重点的に身に付けるべき表現内容や表現方法を共有し、評価の指標も設定しました。A基準は、既習の学習の課題などから、「習った表現を使うことや表情に気を付けて、自己や友達になりたい人についてくわしく紹介ができる」と学級全体で設定をしました。S基準は、児童それぞれが自身の目指す姿をイメージしながら、自己目標として設定しました。

実際にA児、B児が設定した自己目標が右図です。A児、B児共に今までの言語活動を通しての成果や課題を記したリフレクションシートから、「伝える情報の順序」という表現内容や「問い掛けやジェスチャー」などの表現方法を自己目標として設定していました。

また、個別での学習場面を支えるには、具体的な活動例とその手順を示すことが必要であると考えました。そこで、本単元では、右の図の「学びの地図～ラーニングマップ～」を用いました。

実際に本単元で個人の学習場面に入る際に、全体で本時の目標とする姿である本時の目標とする姿を確認しました。児童は、単元全体で目指す自己目標から逆算し、本時の目標とする姿を設定しました。

個別の学習の場面では、教師と共に動画を視聴する学習方法を選択する児童やペアやグループで視聴する児童、1人で動画の視聴スピードを好みに合わせて調整する児童など自身に合った学習方法を選択していました。また、自己目標や本時の目標とする姿に合わせて、外国の子供の自己紹介動画を視聴して分かったことについて自ら進んで友達に伝えた児童やじっくり同じ動画を繰り返し視聴し、気付きを蓄積する児童もいました。

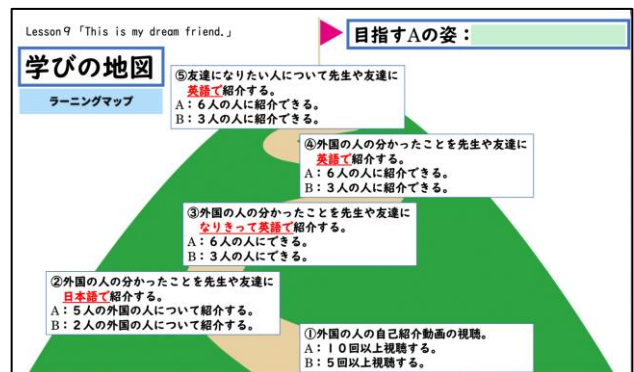
上記の2点の手立てによって、適切な目標の設定やその目標を達成するプランニングを行うことを支援することができました。自己目標の達成に向け、自己の学び方や学ぶペースを調整しながら、多様な他者と関わることで、自己表現と他者の表現を比較しながら思考を広げ、学びを深めていく姿が見られました。

| 【パフォーマンス課題】外国の人と友達になるために、自己紹介と友達になりたい人について紹介しよう。 | | | |
|--|--|---------|------------------------|
| S | A | B | C |
| (A)に加え 自分なりの工夫 (ジェスチャーや問い かけなど) をしながら発表する ことができる。 | 既習の表現を使い、 表情に気を付けながら くわしく紹介ができる。 | 一人でできる。 | 先生や友達をサポート をかりてできる。 |

【児童と設定したパフォーマンス課題や評価の指標】

| 児童のS評価の設定例 | |
|-------------------------------------|---|
| A児 | B児 |
| 問いかけやジェスチャー、表情など相手を意識した紹介をすることができる。 | 伝える情報の順序を考えて、自己紹介や友達になりたい人について紹介することができる。 |

【A児、B児が設定した自己目標】



【本単元で用いた学びの地図～ラーニングマップ～】

子供が新たな価値を創り出すための振り返りの工夫

本時で児童が自身の学びを振り返る際に、学びの価値を創り出す内容として「自己調整の成果」「協働的な学びの成果」「次時以降の学びの方向性」（詳しくは、前頁【予想される児童の反応】を参照）と想定しました。本時における終末のLooking backの活動において学習を振り返る際に、他者からの自己表現に関わる評価によって、児童自身では気付くことが難しい成果や課題を自覚し、自己理解を深めるだけでなく、次時以降の学びの方向性を定め、学びを推進する原動力となると考えました。そこで、本時では、Looking backの活動に入る前に、外国の子供の自己紹介の動画から聞き取れた内容を前時に交流した児童と再度交流する活動を行い、ペアの児童から前時の様子と比べた評価をもらう活動を設定しました。

B児は、本時において、単語の理解から内容全体の理解へと自身の学びの変容について自覚しました。また、自国の文化や自身の自己紹介の表現と比べることで、他国との文化の違いやよりよい紹介に必要な表現内容や表現方法など自己の課題に気付くことができました。自己と他者からの評価を基に振り返りを行い、協働的に学んだことによって得た気付きや成果を自覚し、次時以降の学び方を見通したり、調整したりしようとする姿が見られました。

今日は前回よりもいろいろな情報を聞き取ることができた。前は単語、単語だけが聞こえてきたり、内容を上手く理解することができなかった。けれど、何回も聞いてくうちに、「お米とうどんが好き」「音楽のレッスンをしています」など、その人について聞き取ることができた。日本では食べない食べ物や日本人の言う英語の発音とは違って、とても難しかった。次回は今回よりもいろいろなことを聞き取りたい。また、終わり方などの紹介の仕方に気をつけて他己紹介をしたい。

【B児の本時の振り返り】

IV 1年次研究の成果と課題

1 研究の成果

- パフォーマンス課題や評価の指標、自己目標を児童自身が設定することで、自分にとって意味のある目標を設定し、児童の粘り強さや自己調整を図ることができました。
- 個別の学習場面における目標や自己の学び方を設定する場面で「学びの地図～ラーニングマップ～」を用いることで、児童が自己の学びや学び方を調整しながら、自己表現力を高めようとする姿につながりました。
- 自己評価だけでなく、他者による評価を基に振り返ることで、自己評価では気付くことが難しい成果や課題、次時以降の学び方を見通したり、調整したりすることができました。

2 今後の課題

- CAN-DOリストや評価の指標から設定する自己目標及びその目標達成に向けた学び方や学ぶペース等が適切に合致しているか、児童一人一人の目標や学習状況を丁寧に見取り、個に応じた適切な指導を一層充実していく必要があります。
- 個別での学習場面を支える手立てである「学びの地図～ラーニングマップ～」が児童のより質の高い自己調整につながるよう、内容の吟味をし、充実していくことを目指します。

V 引用・参考文献

- 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動・外国語編 文部科学省 開隆堂 平成29年7月
- 『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての児童たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）』中央教育審議会 令和3年1月
- 初等教育資料No.1018「特集Ⅱ 学習指導要領における指導のポイント」 文部科学省 東洋館出版社 令和4年3月
- 「自己表現活動」を取り入れた英語授業 田中武夫・田中知聡 著 大修館書店 平成15年12月
- 英語運用力が伸びる5ラウンドシステムの英語授業 金谷憲 監・著 大修館書店 平成29年9月
- Can-Doリストを活用した授業改善の試み-指導者は何を指導し、どんな変容を見取るのか- 阿部巧・根岸清人 令和3年3月